
空

新藤松美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空

【コード】

N2004V

【作者名】

新藤松美

【あらすじ】

空と猫と女の子の話。

晴れた。晴天だ。木漏れ日が肌に心地よく降り注いでいる。
しかし、今、私は気分がよくない。

…なぜか？そんなの、決まっている。

私はただ、木陰で眠っていただけなのに、私の腹には、いつの間にか見知らぬ猫がいるのだ。

これはどういうことか。考えてみる。

その理由は多分私と同じで、「ここが気持ちいい」とか「マジ風通し最高」とかだろうな。

もともと動物が苦手な私としては、すぐにでも振り落としてここから立ち去りたいところだが、そうもいかない。

だって、猫は気持ちよさそうに眠っている。

…あ、この顔、ムカつく…

夕方になった。少し雲が出てきたが、猫が起きる気配はない。

まさか死んでないだろうな。…それはないか。あつたかいし。

夕食に間に合うように帰ると母上には伝えて出てきたのだから、遅れるわけにはいかない。

私は猫を落とさないように、でも目を覚ましてくれるように、ゆっくりと上体を起こした。

「…よしよ、」

猫が目を開いた。

やっと起きたかとおぼとする自分と、やべえ起こしちまったと冷や汗をかく自分が現れる。

さてどうしようかと考えながら猫を見つめていれば、奴はあるところか私の顔をなめてきた。

ぞぞぞと背筋に何かが走って、私はしばらく放心状態になってしまった。

気が付いた。どうやら魂はちゃんと私の体へ戻ってきてくれたみたいだ。

立ち上がってスカートに付いた草や猫の毛を叩き落とす。

そして、猫の尻尾が草むらに消えていくのを見た。

「…あ、」

すっかりどんよりしてしまった空から、小さな雨が降り出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2004v/>

空

2011年10月8日07時10分発行